

戦前の地図。近鉄伊賀線の西名張駅から多くの木材が運ばれていた。



特別企画

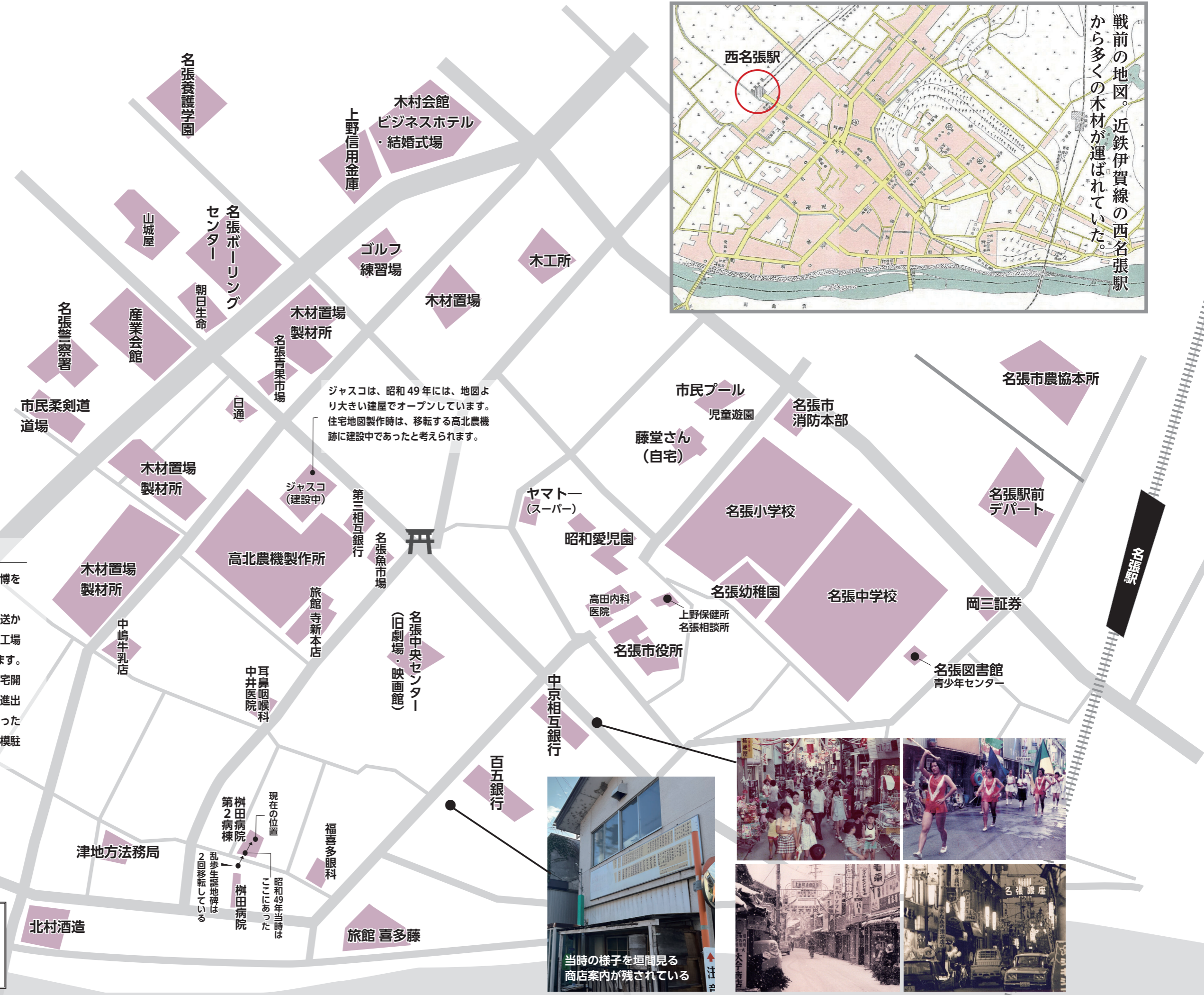
変わりゆくまち。

市立図書館所蔵で最も古い昭和四十九年版住宅地図よりおよそ五十年前の、まちの記憶をたどる——。往年の名張を振り返りながら、歩いてみてもおもしろい。

時代背景

このころは、ちょうど日本全体がオリンピック、万博を経て、高度成長に向かっている時代でした。産業形態では、工業製品の出荷が鉄道による貨物輸送から高速道路網を使ったトラック輸送へ。町中にあった工場は、郊外へ移転、大規模化、工業団地化が進んでいきます。一方、名張市は大阪のベットタウンとして大規模住宅開発が進み、人口が急増。中心市街地に大型商業施設が進出する際に、高北農機跡地は建設にちょうど良い場所だったといえます。昨今、商業施設は、中心市街地から大規模駐車場を備えた郊外型複合施設へと変貌しています。

- ・名張市立図書館の郷土資料室にある住宅地図のうち最も古い昭和49年版の住宅地図をもとに、主な施設などを地図に落とし込んでみました。
- ・おおまかな位置・大きさを示しています。



ジャスコは、昭和49年には、地図より大きい建屋でオープンしています。住宅地図製作時は、移転する高北農機跡地に建設中であつたと考えられます。

